

週報

2007年 4月 15日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸

今朝の聖書から 私たちは、“心がさわぐ”という経験をよくします。その原因は、“よく判らない、判りたい”あるいは“直面している問題を解決したい”などいろいろでしょう。不安や心配の中にあるときには、いろいろのことを考えます。心の中は、“祈り・黙祷”というより、“黙想”の中で実におしゃべりになっているのです。今朝の聖書の箇所記録されている、イエス様のそばにいて、十字架の出来事を知っている人々にも、このことは言えます。“女たちは驚き恐れて、顔を地に伏せていると、このふたりの者が言った、「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか」(24:5)”とあります。彼女達はイエス様の約束“「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日目によみがえる」(9:22)”ということをし、すっかり忘れてしまっていて、空っぽのお墓の中に、何かを求めようとしたのです。彼女達の心は、私たちがよく経験するように、大混乱することになります。しかし御使として現れる人の言葉によって“そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを思い出さなさい。(24:6)”と、求めるものはここにはない、と教えられます。求め、あきらめることなく執着することは、信仰者にとって正しいことです。問題は、“どこに求めるのか”ということです。イエス様は、お墓の中で滅びを示されたのではなく、滅びを象徴する墓の中で、勝利と栄光を明らかにされました。私達も、暗さの中で暗さばかり見て“暗い”と言っているのではなく、暗いところであっても、そこで見えるのは、光であるということ、聖書を通して教えられているのです。去年のイースターに比べて“たとい、どんなに少しであっても、前進した”と思える人は、イースターを喜ぶことが出来るのです。イエス様の勝利を記念することが出来るのです。“今年もイースターがやってきた”としか思えない人は、多くの努力をしたとしても、“私には悲惨につぐ悲惨がやってきた”と言ってしまうのです。無いものの中に求めるのではなく、神様から力をいただくために、神様の世界に、私たちの救いを求めましょう。そうでないとイースターも、カレンダーの上に置いてきてしまうことになるのです。